

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 4292400050 | | |
| 法人名 | 株式会社 グループホーム湯之崎 | | |
| 事業所名 | おばま温泉 グループホーム湯之崎/ユニット えびす | | |
| 所在地 | 長崎県雲仙市小浜町字湯之崎905番地32 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年08月29日 | 評価結果市町村受理日 | 平成22年11月19日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 | | |
| 所在地 | 長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階 | | |
| 訪問調査日 | 平成22年10月7日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の一人ひとりが、全入居者様に対して愛情持って接しているのが、誰が見ても判って頂けるのではないかと思います。その中で、先ずは入居者様の健康第一という事で、些細な体調の変化も小さな負傷も見逃さない様に心がけている。病気や受傷は誰もどこで生活しても有り得る事であるが、その後の対応として、ホームでの生活をしていて良かったと思って頂ける様迅速で確実なものである事を目標としている。入居されてからの事は記憶や記録により分かって、入居以前の事となると御本人様や御家族様に確認したりして現在の状況がどういった経緯で発症したのかを検証する努力を常に行っている。精神的な障害や知的障害等、認知症に限らず多様化する入居者様の病状に対して、お一人お一人の個性として見る事のできる職員が医療だけでは出来ない精神面のケアに懸命に努めていると思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小浜の温泉街の一角にある施設であり、海側の部屋からの景色は、素晴らしい。利用者の生活歴の把握と職員間での共有に力を入れており、介護記録も緻密である。理念の中の「残された能力を最大限に発揮しながら健康で安全な生活を継続していただきたい」という思いのとおり、食事の準備や配膳、後片付けをする方、縫い物が得意な方、それぞれが自分の出来る範囲で役割をこなしている姿が見られた。かかりつけ医の受診では、大村や島原へも車で出掛けており、個人の希望をできるだけ尊重する姿勢が伝わって来た。事業所としてヘルパーの実習受入や、現在申請中であるが、シルバー110番の施設へ申し込むなど、地域への還元も積極的になされているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|--------------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ホームの基本理念が玄関や事務所に掲示があり、職員はいつでも確認できる職員入社後に座学の時間を設け一番最初に説明を行っている | 理念は職員の入社時に施設長が説明を行っている。洗濯物たたみ、食事の準備等利用者が参加しており、「残存能力の発揮」という理念は実現されている。利用者が「その人らしく」暮らす為に、職員は生活歴の把握を行い会議で共有し、毎日のケアで活かしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域での催し物や祭り等にお連れしたり、ホームでの行事に参加を呼びかけて交流を図っている | 町内の子ども会をホームの花火大会へ招待したり、大晦日には、地域の有志で行っている豚汁作りに職員、入居者共に参加している。現在、商工会議所のシルバー110番の施設へ申請中である。この他ヘルパー2級の実習生を受け入れている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 活動として特別な事は行っていないが、町内のケア会議での事例検討は福祉業界内の異職種が集まり広い視野での意見を出し合う。その際に認知症専門職としての意見を提供する事は間接的な支援とは言えないか | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1度の開催という事では確実にできていない事は否めないが、開催した場合は常に貴重なご意見を賜り現場に活かす様にしている | 過去一年間で4回開催されている。メンバーは、家族、自治会、民生委員、包括支援センター、施設長、計画作成担当者である。家族の方から従業員のマナー研修について助言があり、実践する等ホームの運営に活かしている。 | 運営推進会議は、概ね2ヶ月に1度が望ましく、今後の働きかけに期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 入居に結びついた方々のその後を心配して頂き事業所側からも落ち着かれるまでの支援を依頼したり、地域包括支援センターの職員の方々にはお世話になっている | 包括支援センターからは、ケア会議への参加がある。合わせて、包括センターの方から成年後見制度についてのアドバイスをいただくなど、密接な関係が築かれている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員の一人が実践者研修にて持ち帰った施設内研修において、職員間で改めて“身体拘束”について考える時間を持っており、キャリアの長さに関わらず当ホーム当ユニットなりの理解に向けて努力している | 今期、複数の職員が外部の研修に参加し言葉による拘束や、車椅子の方への対応を考え直すきっかけとなり、身体拘束についての認識を新たにしている。ミーティングの中でも代表者の思いは、繰り返し伝えられている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 防止に努めている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ある方は、御家族はおられるがこれまで頼られる事無くご自身で生きて来られ、財産もありで入居の際支援が必要であった 今後もっと必要になる事は必至で、その場面で最善の方法を取れる様知識を深めておく事が求められている | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 御家族様と入居者様と別々ではあるが、説明を行い理解・納得を得ている | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 御家族様のご意見は頂いた時点で対応した職員が速やかに全職員に伝え、解決策を話し合い、その流れや内容を御家族様へ報告するようにしている 但し、その機会を設けているわけではない | 家族の要望は、訪問時に聞き取り、スタッフ会議の中で、全員に伝えるようにしている。これまでに家族からの希望で、歯科の往診が実現した例がある。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 運営に関しての意見を求める機会を設けていないが、現場に関わる業務内容や物品に関しては職員の意見を先ず優先的に通すようにしている | 第3水曜日、全員でスタッフ会議を開催している。これまでには、職員のシフトやシャワーキャリーの購入、車両の買い換えについての意見が出されている。これを受けて、人事考課(自己評価を含む)の導入も検討している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 常に努力している | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の力量・技量・最終的な目標等を出来るだけ把握し、一人ひとりのレベルに合わせた研修の機会を設ける様に務めている | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市内のグループホーム連絡協議会での研修会に参加を要請したり、半島内のグループホーム連絡協議会主催の行事に参加する事により、他事業所の方々との接点を作り交流を図っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居が突然決まった方の場合、御本人様にとっては受け入れるまでに当然時間もかかり、職員は大変辛抱強く御本人様の要望をお聞きし、事業所として出来る事出来ない事を時間をかけ説明し、理解納得して頂けた | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | お聞きできる範囲でその方のそれまでの人生の事・生活の様子・入居に至る経緯・御本人様や御家族様の希望をお聞きし、関係性や信頼を深めていける様に務めている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居前に利用されていたデイケアの利用が今後出来なくなる(全額負担となる)事を説明し、それに替わる通所リハを御本人様や御家族様に提案している | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | お一人お一人の出来る事出来ない事を把握し出来る事は積極的に取り組んで頂ける様なサポートに努めてはいるが、入居して間もない方のペースを掴むまで介護する側とされる側の間に隔たりがあるのは否めない | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会や行事への参加を呼びかけたり、ご希望や必要性があれば病院受診にも同行して頂いている 又、面会時に入居者様が御家族様に辛くあたられたりした時にはその後もフォローを入れている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 基会所への送迎をしたり、ご自宅への帰宅に同行や送迎をしたり、御家族様やお友達が気軽に訪ねて頂ける様に務めている | 利用者の方の生活歴を入所時に限らず、日常のケアの中から聞き取り、シートに書き込む事により、全員が共有している。碁を打ちに訪ねて来る方をはじめ、友人の訪問も多い。この他先祖へのお参り、年2、3回の自宅への外泊も行われている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 被害妄想のある方などは、その事により他入居者様の気分を害さない様に職員が間を取り持ったりさりげなく距離を置いたりしている 他にも入居者様同士の会話がスムーズに行く様フォローしたりしている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約が終了する前後、医療機関への転居に際しその御家族様への支援を出来る限り行った 退去後も困られた際にはいつでも相談される様にお声かけ行き又、季節のご挨拶等送る事になっている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 希望や意向の把握については全職員が努力しているが、その全てに対応できるわけではなく、その際なるべくお互いの思いが歩み寄れる様に務めている | 利用者の生きてきた人生や職業を尊重する姿勢を第一にしており、同じ話であっても職員は丁寧に耳を傾けている。耳の不自由な方への対応も工夫されている。利用者一人ひとりの思いは、申し送りノートで全員で共有されている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 会話からの引き出しや御家族様を交えての談話からお話を伺っている それは入居されている年数に関わらず、知りたい事ができたら何う様にしており、我々の知り得ない入居者様の一面を垣間見る努力をしている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 比較的詳細を記載する個人日誌や全入居者様の一日の様子を記載するホーム日誌、日に2度の申し送りにて全職員で全入居者様の現状の把握に努めているといえる | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 個人別に担当者を決めておりより深く個々の理解に務めている 又、月に1度全職員揃ってのミーティングを行い3名の方の介護計画の見直しを行う為項目毎に評価をし合うと同時に今後のケアの統一を図っている | 本人や訪問時に聞き取った家族からの要望を基に計画を作成している。プランの見直しは、ひと月に3名ずつ行う事により一人ひとりにかける時間を多く取っている。個人日誌を基に、スタッフ会議全員で検討し、モニタリングが行われている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個人日誌・ホーム日誌・受診録と使い分けを行い、心身の状態・その日の出来事を記入し日々の状況を分かる様にし、申し送りでの伝達も確実にやっている | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 御家族様が近くにおられないとか、独居されていた入居者様等は、財産等に関わる支援が必要となる場合があり、その場その場である程度管理職の立場にある職員が対応する様にしている | | |

グループホーム湯之崎(えびす)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 老人福祉センターでの基会や近隣の通所リハ、市が行う健康診断等お一人お一人の希望やレベルに応じて出来るだけ対応できる態勢を整えている | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前のかかりつけ医の有無・入居後のご希望をご本人様・御家族様共に伺い希望通りに対応している 緊急時は救急病院の受診をして頂くが、その都度御本人様に了解頂き、御家族様に報告しており問題はない | 入居の際の聞き取りやアンケートによりかかりつけ医を調査し、できるだけ尊重している。大村や島原への受診も行われている。歯科は往診、眼科、皮膚科、心療内科への受診等きめ細やかな支援が行われている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護導入より1年経過し、看護師の方に対する信頼や安心感等を入居者様・職員共に感じる様になり、訪問時の相談はもちろん、事故報告等をさせて頂く中で連携の大切さ有り難さが分かる様になっている | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 定期受診はもちろん、怪我や体調不良時にはその都度状態に合わせて専門医を受診している その際かかりつけ医以外にて受診した場合はかかりつけ医への報告を必ず行っている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 年々入居者様のレベル低下は受け止めているが、改めて御家族様と共に現実と向き合うと言う事がいかに大変かが分かってきた為、話し合いの必要性を説明する意識を入居時より持つようになった事は進歩である | 重要事項説明書の中で、「指針」が示されており、ホームの取組の方針が明示されている。これまでにホームで看取った方が1名いる。期間が短かったこともあり、十分な看取りの対応が行えたかは今後の課題であるが、職員の意識の変化や、全員で取り組む姿勢が出て来ている。 | 看取りについては、今後全員で話し合いを重ね、マニュアルを整備する等、支援する体制を構築してゆく事が望まれる。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時のマニュアルはあるが、実技・訓練等には至っていない 次回の避難訓練時に消防署に依頼し訓練を実施する予定としている | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 今年3月には消防署/消防団/事業所との合同避難訓練を実施し、実際に火事が起きた場合は必ずお世話になる地元の消防団に施設内外の間取り等見て頂き、実際に救助訓練ができた事は大変有り難い事であった | 2月にスプリンクラーが設置されている。3月に2回、雲仙、小浜消防署及び消防団との連携で、夜間想定で避難訓練を行っている。避難所は、隣接している旅館の駐車場である。現在のところ、地域住民との協力体制が十分には出来ていない。 | ホームが、鉄筋の建物の中にある事を考慮すると、災害時の地域の住民の方々との協力体制を密接に築いてゆく事が望まれる。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | プライバシー的な話の場合は居室に訪室して行い、記録中に席を立つ際には日誌を閉じる等のお一人お一人のプライバシー尊重の教育を行っているが、職員同士の会話が公に行われる事もあり、今後改善必要 | 呼びかけの方法については、おじいちゃん、おばあちゃんではなく、必ず名前を呼ぶよう、施設長からスタッフ会議にて指導が行われている他、入室時の注意、トイレの誘導についての従業員への教育が行われている。個人情報の取扱については、入社時に誓約書を取り交わしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者様はその日の体調や行きたい場所等を職員へ伝えたり、その時の気分でTVを見たり、居室で休んだりされている 何をしたいか不安な方や休息が必要な方へは職員から声かけや希望を聞く等行っている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 受診がある/ない、又職員が充足している/いない等、その日により入浴等の相談をしている 何をしたいか等の希望もお一人お一人のペースによりご希望通りに過ごして頂ける様に支援する事を目指している | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | TPOや季節感、又は着方そのものを誤った着こなしをされている場合はさりげない声かけを心がけている 又、行事や誕生日の主役の際等に一緒に準備をしたり、御家族様に伺う等気をつけている | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の量をそれぞれに合わせてたり、介助の必要の度合いにて職員がついたりしている おやつ作りもレクリエーション感覚で行えており、楽しまれている | 献立は担当者が利用者の意見を取り入れながら作成している。嗜好は、基本情報で把握しており、例えば、青魚がだめな人には、代わりの食材で対応している。きざみ食も行っている。利用者は、準備や後片付けにも参加しており、おやつと一緒に作る事もある。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | ジュースやお茶など、時間やバランス、お一人お一人のカロリー摂取量等を考え提供している | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 訪問歯科の往診をして頂く様になり、御本人様や御家族様の希望に応じてホームでの受診が可能となり、口腔内全体のケアがより専門的にできる様になった | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 失語症状ある方にも、最終排便日より数日開きその前兆が見えると、トイレでの排泄/居室にてポータブルトイレ使用/更にはベッド上臥位にて楽に排泄・交換という選択肢より、何とかご希望を聞きだす努力をしている | 利用者によっては、排泄のチェック表を作成し、パターンを把握している。ポータブルトイレは夜のみ使用とし、おむつの方にもできるだけトイレへ誘導し、自立を促している。居室は、臭いもなく清潔に保たれている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 拒否の多い水分摂取を全入居者様にお願いしたり様々な方法で工夫したり、又は散歩や運動等の声かけをしたりと職員は大変な努力を行っている 又、服薬の力が必要な方には医師への相談・報告を行っている | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴の希望の強い方、拒否の強い方、共にいらつやる為、職員の都合と言うよりも逆にいかに希望に沿って入浴をお勧めするか、と言う事に奔走していると言える | 入浴日は特に決めておらず、自由である。毎日温泉が利用できるが、アレルギーの方には水道水を沸かしている。同性介助を希望される方には対応をしている。入浴を拒否される場合も時間帯や対応者を代えて支援に努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 生活習慣よりもお一人お一人加齢やレベルの低下に伴い、午睡や休息が必要になられている為、その日その日の入居者様の状態をよく観察し、その日その時の対応ができています | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 新しく処方された場合はその副作用を予め聞いておき、副作用が出た場合は医師や薬剤師に確認する等して対応している | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居者様のレベルに応じて家事をお願いしたり、男性入居者様にも快く引き受けて下さる様な声かけを工夫したりしている 誕生日や行事・催し等を利用し気分転換を図る様に企画している | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 入居間もない方の帰宅のご希望や、妄想による神頼みの為の参拝希望等、出来る限り対応している 出来ない場合は別の解決策の提案をしたり、できない理由やいつ対応できるのかをお伝えする様にしている | 食材の買い物に職員に同行したり、趣味の手芸や裁縫道具を買いに行く事もある。また歩いていける距離に小浜温泉の足湯があり、楽しみとなっている。また1階が飲食店の為、外食に利用する等の支援が行われている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お一人お一人のレベルやそれまでの生活習慣や御家族様の状況に応じて対応している中には、大金を持つ習慣のある方がおられ共同生活という現状把握を理解頂くまで時間をかけ信用を築く努力をさせて頂いた | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 季節の御挨拶状を職員と共に作成して頂いたり、電話の希望がある場合も支援している逆に贈物が届いたりするとこちらからお礼の電話をかける事をお勧めし、その支援をしている | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者様の居室は御本人様や御家族様に協力頂き、居心地のいい空間を作る様に努めている | リビングには、ソファが置かれ利用者がゆったりとくつろげる空間となっている。施設全体に掃除が行き届いており、トイレも清潔である。洗面所には、杖を立てかけやすい工夫がされており、細やかな配慮が感じられる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 気分や状況に応じて入居者様同士の居心地を察知する事ができる様にアンテナを張り、居場所を検討できる様に心がけている | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居に際しては出来るだけご自宅に近い環境になる様御家族様に依頼し、御家族様の写真や趣味の物を飾る等心地よい空間に近づけようと努力している 皮膚疾患の為居室内に温湿度計を設置している方もいる | 以前は、旅館だった施設であり、内縁や床の間がある部屋もある。室内には、家族の写真や趣味の手芸品が思い思いに飾られている。ベッドは好みの物が持ち込まれている。ミシンや碁盤を持ち込んでいる利用者もいて、くつろげる空間となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 食事の下ごしらえ・食器洗い、洗濯物のしわ伸ばし・干し・たたみ作業、その他の手作業等、出来る事をお願いし、作業終了後は感謝の気持ちを表し役割を感じて頂ける様にしている | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 4292400050 | | |
| 法人名 | 株式会社 グループホーム湯之崎 | | |
| 事業所名 | おばま温泉 グループホーム湯之崎/ユニット ほてい | | |
| 所在地 | 長崎県雲仙市小浜町字湯之崎905番地32 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年08月29日 | 評価結果市町村受理日 | 平成22年11月19日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 |
| 所在地 | 長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階 |
| 訪問調査日 | 平成22年10月07日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お子様のおられない方等、個々人の置かれている状況は様々で、御家族様の協力がいかに我々にとって重要かを常に感じている 認知症という症状の一番の特徴である記憶障害により訴えの頻回な方や、見当識障害や痛み等様々な症状が一度に表出する方等、又その様な方々と生活を共にする他の入居者様の愚痴やストレスを回避する為の努力等、時間は足りる事無く過ぎていく中で、どうすれば全ての入居者様の居心地がよくなるのか模索し続けている 向精神薬での抑制とならない様専門科医への相談や多方面から症状を見て解決策がないかを探している しかし脳の病気がさせるのか入居者様にどんなにひどい言葉を投げられても、懸命にケアをする職員の努力が一番入居者様を変化させていると信じるし、又、その原動力となっているのも入居者様の笑顔である事は間違いないと思える

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ホームの基本理念が玄関や事務所に掲示があり、職員はいつでも確認できる 職員入社後に座学の時間を設け一番最初に説明を行っている | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 昨年より始まったホーム主催の花火大会では地域の子供会に参加して頂いたり、盆踊りの為の踊りを地域の婦人会の方に伝授して頂き盆踊りに出かけたりして、大変喜ばれていた | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域貢献といえるかどうか不明だが、この町の催しにはなるべく参加したり買物に出かける事で、地域の一員として生活している事を知って頂く努力をしている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1度の開催という事では確実にできていない事は否めないが、開催した場合は常に貴重なご意見を賜り現場に活かす様にしている | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 入居に結びついた方々のその後を心配して頂き事業所側からも落ち着かれるまでの支援を依頼したり、地域包括支援センターの職員の方々にはお世話になっている | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員の入れ代わりの激しい中、ユニットのホーム長がやっとその研修に参加できたところである 玄関の施錠は基本的に行わないが、ケアの中身を見直すと意識のない拘束は行われていると思われる | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 防止に努めている | | |

グループホーム湯之崎(ほてい)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在お一人の入居者様について成年後見制度利用の為の手續進行中 その為これらに関する研修等参加する様努めてはいるが、まだ十分な理解ができているとは言えない | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 御家族様と入居者様と別々ではあるが、説明行い理解・納得を得ている 例外として、関わりを持ちたくないと言われる御家族様にも職員が連絡を取り、書面にての契約と同意を頂いた | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 御家族様のご意見は頂いた時点で対応した職員が速やかに全職員に伝え、解決策を話し合い、その流れや内容を御家族様へ報告するようにしている 但し、特別にその機会を設けているわけではない | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 運営に関しての意見を求める機会には設けていないが、現場に関わる業務内容や物品に関しては職員の意見を先ず優先的に通すようにしている | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 常に努力している | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 進めてはいるが、十分なシフト体制でなく、又職員の入れ代わりも激しい為順調に進んでいるとはいえない | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市内のグループホーム連絡協議会での研修会に参加を要請したり、半島内のグループホーム連絡協議会主催の行事に参加する事により、他事業所の方々との接点を作り交流を図っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居後不穏状態が続く、他入居者様への影響を最小限にすべく職員は努力をし、徐々に初期の訴えとは変化した事はホームでの生活を受け入れて下さったと思っている 今後も信頼関係を築く努力をしていく | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 職員の入れ代りの多さを逆にとり、入居が長くなる毎に逆に気を引き締め入居者様に關する知識に貪欲になるいい機会と考え常に緊張感を持って対応する様に心がけている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 比較的切羽詰った状況で入居される事が多い為どちらかと言えばとにかく入居できる事を望まれる事が多い 今後も、初期対応に限らず日頃より「その時」必要な支援を常に考える様に努めたい | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 個々の出来る事出来ない事を把握し出来る事は積極的に取り組んで頂ける様なサポートに努めてはいる 困難事例と言える入居者様の対応に職員は日々努力をしているが結果が伴わないのも事実である | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会や行事への参加を呼びかけたり、ご希望や必要性があれば病院受診にも同行して頂いている 御家族様の名前や存在自体の記憶が薄れ行く中で、会話に御家族様の名前を出す等、支援している | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご自宅がある方などは御家族様や職員同行にて帰宅の支援をしたり、希望があれば墓参りへお連れしたりしている その際にはご近所の方とも会われたりしている | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者様お一人お一人の個性が強く色々と衝突する場面も出てくるが、その都度職員が間に入り取り持つ様にしている 現在より良い関係が築ける様検討中である | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約が終了する前後、医療機関への転居に際しその御家族様への支援を出来る限り行った 退去後も困られた際にはいつでも相談される様にお声かけ行き又、季節のご挨拶等送る事にしている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 出来る限り御本人様の要望に沿える様努力しているが、御本人様の希望であっても日中ずっと臥床していたい等の身体的にマイナスとなるご意向は職員間で検討、応じられない理由やその後のリスク等を説明している | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 会話からの引き出しや御家族様を交えての談話からお話を伺っている それは入居されている年数に関わらず、知りたい事ができたら伺う様にしており、我々の知り得ない入居者様の一面を垣間見る努力をしている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 職員の人数不足・業務に追われる場面が多く行き届いていない部分もあるが、出来る限り把握できる様に努めている | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 個人別に担当者を決めておりより深く個々の理解に務めている 又、月に1度全職員揃ってのミーティングを行い3名の方の介護計画の見直しを行う為項目毎に評価をし合うと同時に今後のケアの統一を図っている | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 職員の入れ代りの激しさから問題は山積しており全ての出来ていない事に通じるも、一つ一つ問題を解決する努力を続けていく | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 御家族様の経済的な問題をお聞きし、お役に立っているとは言えないが、介護認定の更新に関する相談や代理申請を行ったり、社会的資源の利用の提案をしたり、何とかお力になれないかと考えている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ユニット内に御家族様の支援を受ける事の困難な入居者様が多く、お一人は現在成年後見人手続中である 今後の課題として、現在は御本人様対応の金銭管理も、出来なくなった時の事を検討しておく必要がある | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前のかかりつけ医と入居後のご希望をご本人様・御家族様共に伺い希望通りに対応しているが、御家族様に頼る事の出来ない方には御本人様の症状に、より良い医療が受けられる様職員にて支援している | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | お一人お一人の情報や気づきを先ず職員間にて共有し、その後訪問看護師やかかりつけ医へ確実に伝えていく様努めている | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | かかりつけ医による定期受診を行いつつ、異変がある場合は早急に気づき、医療機関に相談をし常に事前の対応を心がけている 入院の際も早期の退院を目指し医療機関との連携を図っている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 御家族様との関係性も様々であるお一人お一人の場合を想定し、事業所として出来る事を十分に検討する必要があると考える | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時のマニュアルはあるが、実技・訓練等には至っていない 次回の避難訓練時に消防署に依頼し訓練を実施する予定としている | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 今年3月には消防署/消防団/事業所との合同避難訓練を実施したが、色々問題・課題が表に現れ充分とは言えなかった為、今後も職員の意識を高めると同時に地域との協力体制を築く努力を続けていく | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 男性職員では支障がある場合・担当職員での対応がよい場合、又内容によって等入室したりタイミングを計る様にはしているが、職員によってはプライバシーの重要性に理解が足りない者もおり今後も指導が必要である | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 努めてはいるが、要望・訴えの激しい入居者様に対しては、他入居者様への対応もあり、待つて頂いたり、選択肢を職員にて絞らせて頂く場面もある | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 受診がある/ない、又職員が充足している/いない等、その日より入浴等の相談をしている 外出の希望等はなるべく対応できる様努めているが、日々の要望等は余裕のない日々という雰囲気が強い | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 職員は基本的な清潔保持に関しては確実に勤めていると評価できるが、全体的な“整容”という事まで追及するとまだまだであると言える 更にその先の『おしゃれ』となると今後の課題となる | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 下ごしらえや配膳、食後の片付け等入居者様のレベルやペースに合わせて手伝って頂いているが、その手伝って頂く方には偏りがある 食欲不振の続く方に御家族様と共に代替のメニューを考える等支援している | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 習慣に応じると脱水になるという方もいる為、入居後の習慣にして頂きたく熱心に声かけ行い少しでも多く水分摂取して頂く努力をしている お好きな飲み物等をお出する等の支援は行っている | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 訪問歯科の往診をして頂く様になり、御本人様や御家族様の希望に応じてホームでの受診が可能となり、口腔内全体のケアがより専門的にできる様になった レベルにより自力で出来ない方は介助を実施している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 必要な介助をその時々・レベルにより見極め、排便自体困難な方には摘便施行や服薬によるコントロールを行ったり等支援している 又それぞれのパッド類の種類等が適正かどうかを職員間で検討したりしている | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 拒否の多い水分摂取を全入居者様にお願いしたり様々な方法で工夫したり、又は散歩や運動等の声かけをしたりと職員は大変な努力を行っている 又、服薬の力が必要な方には医師への相談・報告を行っている | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 職員の人数や受診者数によって出来ない日があったり、間の開いている方を優先的に声かけしたりと、入浴日をこちらで決める事が多いのは事実 介助はお一人お一人のレベルに合わせて行っている | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | レベル低下に伴い、座位保持が困難だったり傾きが出たりするので、出来るだけ痛み無く身体に負担を与えないポジショニングを考えている 又、日中の臥床を希望されても起きて頂く様にし、夜間の安眠を図っている | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 新しく処方された場合はその副作用を予め聞いておき、副作用が出た場合は医師や薬剤師に確認する等して対応している | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | やりたい事を主張できる方には手伝える部分を申し出て頂いたり、主張できない方には職員が提案し意外な発見をしたりと支援できているが、やりたい事が掴めない方の楽しみを見出す事が一番の課題である | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 入居者様からの希望があればなるべくその時に対応する様にしているが、行事等に合わせて職員を充当している時意外は外出が困難な状態であるのが現状である | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 入居者様のご希望に応じて買物同行したり、代わりに職員が必要な物を買に行き金額を伝えて了解して頂く様になっている 又、お金を使う能力を失った方も、持つ事により安心感を得られている方もいらっしゃる | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話の要望あればその時対応している 又、職員の発案で、月々の近況報告に御本人様から御家族様に宛て直筆で書いて頂く方もいらっしゃる | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 少しでも寛いで頂ける様にポジショニングの工夫をしたり、居室とリビングの往復で刈払いを付けたりにしているが、個性的な入居者様の集まりで主張が飛び交う事もあり余り続くと居室に逃げられる入居者様もいらっしゃる | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 気分や状況に応じて入居者様同士の居心地を察知する事ができる様にアンテナを張り、居場所を検討できる様に心がけている | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居の際なるべくご自宅に近い環境になる様に心がけ、御家族様の写真や趣味の物を飾る等心地よい空間に近づける様努めている 又、歩行不安定な方に対しては転倒の危険や障害物がないか気をつけている | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 視野障害・視力障害のある方や認知症進行の著しい入居者様が、ご自身の居室やトイレ等を身体で覚えておられる為、なるべく配置を変える事無く今後も安全を第一に考えていきたい | | |